

事業の実施状況等について

【東住吉区】 (受託者等:大阪市コミュニティ協会)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

項目 自律的運営に向けた地域活動協議会 の取組(イメージ)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	全区的に人口減少、高齢化傾向にあり、区内14地域において、子育て層の転入・定着、防犯・防災対策、地域資源(公園、公的スポーツ施設、商店、大学・専門学校、事業所、空家など)の活用などが共通の地域課題となっている。個別には、若手の地域活動参加(今川地活協)、地活協事業の見直し(田辺地活協)、町会再編、市営住宅建替など(住道矢田地活協)、広報活動の充実(矢田中地活協)などが地域課題として認識されており、中間支援事業者として各地活協の取組を支援している。また、地域データ(地域カルテ)の更新を通じて各地域の地域課題の再確認している。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	地域内外における人や団体のつながりの拡充に向けて、区広報紙における「地域活動協議会」の趣旨・目的の周知、活動状況の紹介などを行いながら、地活協広報の充実と担い手の公募・発掘、地活協役員の交代時期をとらえた協議会運営の刷新などを相談・支援している。H31年度においては、「地活協広報紙」の新規発行、「まちづくり研究会」の準備・開設、協議会スタッフの募集、若手参加の促進などについて地活協の取組を支援し、地域内外における人や団体のつながりの拡充を進めている。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	各地域活動協議会において会計、広報、事業実施について事務体制が確立している。近年は「地活協ブログ」の開設と地活協規約、役員名簿、構成団体の掲載など、組織運営の基礎的な要件を整備を支援してきた。また、日常的な相談活動、事務支援を基礎としながら、各地活協における各種団体間の連絡と調整の円滑化、会館運営、自主財源づくり、新規事業の検討などの支援に努めている。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※)Ⅰ・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
- Ⅱ・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
- ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働【外部との連携】 ・Ⅱ 地域公共人材の活用
- Ⅲ・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動

項目(※)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
事業の実施状況及び効果 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	○			北・中部の6地域(育和、桑津、北田辺、東田辺、南田辺、湯里)については、ほぼ自律的な組織運営ができてきたことから、各地活協の要望に応じた新事業の企画、既存事業の再編、先進事例の情報提供などを行う。 中・南部の8地域(今川、田辺、南百済、鷹合、矢田北、住道矢田、矢田中、矢田西)については、各地活協の実情に応じた支援、担い手の交代時期などを捉えた支援を行う。	中・南部の8地域においては、平成30年度、地活協会長の交代があった5地域(今川、田辺、鷹合、住道矢田、矢田中)について、地域からの要請に応じ、各種相談を基本的に協議会の運営支援に重点的に取り組んだ。 昨年度地活協の会長の交代があった5地域については、引き続き支援内容の説明を行っており、地活協の趣旨諸々を理解していただいている。その結果、地域が自発的に活動を行うようになり、地域からの支援要請に的確に対応しているのは評価できる。	住道矢田地活協では市営住宅建替にともなう課題検討、まちづくり研究会の開設を支援した。矢田中地活協では地活協広報紙3500部の発行、近隣に所在する専門学校との連携を推進した。今川、鷹合、田辺の各地活協における地域活動の担い手の拡充について相談・支援を行った。	住道矢田および矢田中の各地活協においては、中間支援事業者と定期的な打合せにより、地域課題への対応が進められている。今川、田辺、鷹合の各地域についても相談・打合せを定期化していくことが効果的だと考えられる。北・中部の6地域については、地域データ(地域カルテ)の充実、タイムリーな情報提供などを通して地域活動の支援を進めたい。
		○		「地域活動協議会の意義や目的」の再確認と周知を継続しながら、地活協役員の交代時期をとらえた運営状況の点検、地域の人材発掘、地活協の広報活動の充実などにより、地域内外における人や団体のつながりを拡充していく。	地域連絡会議において中間支援のメニューを提示(各種相談、民間助成金活用、地域活動チラシづくり、地活協ブログの立上げ支援など)。今川、田辺、鷹合、住道矢田、矢田中の各地域活動協議会について、相談および協議会運営支援を行っている。 各地域ごとの課題に沿った対応をしており、特に情報発信については重点的に取り組んでいる。その結果、会長自らブログ更新を行うなど、支援は有効であると評価できる。ブログをきっかけに若い世代が地活協に興味を持ってもらえるよう期待する。	住道矢田および矢田中の各地活協では地域課題などについて役員等での意見交換および対応が進んでいる。今川、田辺、鷹合の各地活協では担い手の拡充などについて、地活協会長や役員間での意見交換が進んでいる。	各地域活協における会長・役員等での意見交換、地活協の広報支援を進め、好事例をつくりながら、現役世代やリタイアメントの地域活動への参加を促していくことが課題である。各地活協における会長・役員等での意見交換に資する情報提供や相談機会を充実していくことも課題である。
			○	日常的な相談活動、事務支援を行いつつ、協力・構成団体や新たな担い手の発掘・育成、地域の人材発掘、運営費補助金の効果的な活用(事務報酬、広報などへの充当)の提案、自主財源づくりを支援する。	会計事務は軌道にのってきており、運営委員会や部会の適切な運営、事業効果アンケート活用、事業見直し、自主財源への関心の喚起などを呼びかけている。 会計事務が一定軌道に乗り、予算見直しを含めた事業見直しを行っており、今後も継続した支援を期待している。地域で会計説明会を開催しており、地活協メンバー全体の会計事務に対する知識の底上げにも力を入れている。	全般に会計事務は軌道にのってきたが、既存事業の継続にとどまっているケースもあり、事業計画・予算づくりの機会を、事業見直しや自主財源確保に向けた話し合いに結びつけていくことが課題となっている。	「会計処理」から「事業計画・予算づくりの場での事業見直しや新規事業検討」へと地活協における支援重点を移行し、各地活協における会長・役員等での意見交換に資する情報提供や相談機会を充実していくことも課題である。

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見	
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	大阪府安まちアーカイブ(大阪府警察本部)にもとづく防犯関係情報を14地域について整理した。 防犯情報は地域の人にとって日々の生活に大きな影響を与えることから、整理した内容の共有を行い地域課題の解決に向かうことを期待する。	14地域の防犯関係状況について基礎資料を作成することができた。 防犯情報は地域の人にとって日々の生活に大きな影響を与えることから、整理した内容の共有を行い地域課題の解決に向かうことを期待する。	各地域活動協議会に防犯関係状況にかかる基礎資料を提供していく。 防犯情報は地域の人にとって日々の生活に大きな影響を与えることから、整理した内容の共有を行い地域課題の解決に向かうことを期待する。	
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	担当1人(工学博士、アドバイザーと支援員を兼務) 大阪市コミュニティ協会東住吉区支部事務局にて連絡調整を補充	会長が交代した地域において、地活協活動全般についての見直し、広報活動、地域活動の協力者の募集などの動きが進化した。 会長が交代した地域においては、地域運営が従前のスタイルにとられない状態からのスタートとなり、活動幅が広がったことは大いに評価できる。	会長が交代した地域で情報交換や役員相互の啓発が活発化した。なかでも、住道矢田地活協、矢田中地活協、今川地活協などにおいて地域課題検討と対応などが進んだ。 3地域については重点的な支援により、活動内容が活発になっていることは評価できる。今後、他地域にも好事例として派生することを期待している。	令和2年2月時点で会長・役員交代時期を迎えるため、人事更新を組織運営の活性化に結び付けたい。地域から気軽に相談の声がかかるよう、地域への訪問機会を増やすよう心がけたい。 地域的には現体制は3年目となり、中間支援事業者の支援メニューについては、役員間で認識されている。支援を行っている地域を中心に活用も広がり、このような支援の好事例を今後も増やせるよう期待する。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	大阪市コミュニティ協会の大都市コミュニティ研究室および9区のまちづくりセンターアドバイザー等で「アドバイザー会議」を構成し、業務推進上の知見を相互に提供しあっている。また区域を越えた地活協相互の交流にも便宜を提供している。さらに、大阪市コミュニティ協会東住吉区支部事務局と連携体制を構築している。	アドバイザー会議を毎月開催し、参考となる事例については、東住吉区役所担当者情報共有し、区内地活協での応用、活用を促している。支部事務局に寄せられた支援ニーズには適宜応じている。 情報共有することにより他区の状況把握ができ、新たな気付きとなること、またそこから区内地域への支援の参考に結び付く等、積極的なフィードバックを期待する。	東住吉区の各地域の現状を踏まえて、同様の問題を抱えている地域、課題解決の好事例を紹介するなど、地域が参考としやすい事例の紹介に努めている。 区内各地域の現状を踏まえて、同様の問題を抱えている地域に課題解決の好事例を紹介することにより、地域が課題解決の糸口となることを期待する。	アドバイザー会議で得られた参考事例については、地活協の会長・役員等にもタイムリーに提供し、地域での実践につなげていくよう心がけている。 区内各地域の現状を踏まえて、同様の問題を抱えている地域に課題解決の好事例を会長・役員等に積極的に紹介することにより、地域が課題解決の糸口となることを期待する。
	(3)区のマネジメントに対応した取組				

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
地域活動協議会の認知度アップ	東住吉区広報紙「なでしこ」における地域活動協議会の紹介 「地活協の目的」にかかる説明・解説	町会を含む地域活動への参加促進、地域活動協議会の認知度向上について、東住吉区広報紙「なでしこ」における広報原案を作成した。今川、田辺、鷹合、住道矢田および矢田中の各地域活動協議会において、「地活協の目的や効用」にかかる説明を繰り返し実施した。 広報紙「なでしこ」は新聞折込で毎月1日に配布され、区民が区からの情報を得るのに活用している。地活協主催の夏祭りの日程や年1回の地活協特集では、日々の地活協の活動が区民の身近なものであることの周知に努めている。	広報紙「なでしこ」への「地活協の目的等」の掲載は11月号で行われた。地活協役員には「わかりやすかった」といった声があった。 「地活協の目的や効用」については、徐々に理解されている。 「地活協の目的や効用」については、ある一定の理解を得られている。今後は日々の活動が区民の身近なものであることの理解を深め、新たな地域活動の担い手確保に向けて支援を期待する。	「地活協の目的や効用」について、最新の事例や好事例を交え、繰り返し説明を継続していく。その際の参考資料として、東住吉区広報「なでしこ」2019年11月号(No.282)を活用していく。 「地活協の目的や効用」については、ある一定の理解を得られている。今後は日々の活動が区民の身近なものであることの理解を深め、新たな地域活動の担い手確保に向けて支援を期待する。
新たな担い手の発掘・スキルアップ支援	現役世代やリタイアメントなどの地域活動への参加を促進するために、地域活動協議会における広報や研修を支援する。PTA、青少年指導員、町会役員などを経て地域活動協議会の役員になるといった従来の人材確保ルートに加え、学生・生徒などを含む現役世代、リタイアメント、地域の事業所や教育機関等と連携し、新たな地域活動の担い手発掘を支援する。	今川地活協「若者も参加できる町会活動にしたい」、田辺地活協「事業計画・報告を円滑にしたい」、鷹合地活協「地活協事務スタッフを募集したい」、住道矢田地活協「まちづくりの課題を検討したい」、矢田中地活協「地域広報にとりくみたい」といった相談に応じ、必要となる支援を行った。 各地域の課題についての的確な支援を行い、解決に向けて前進していることは大いに評価できる。現在、支援が継続中であるが、地域自らが地域のことを考える傾向にあり、地域活動が活性化していると感じている。	今川地活協:「まちづくりセミナー」を地域公共人材を活用して実施(約80名)。田辺地活協:「事業計画・報告研修」、鷹合地活協:「事務スタッフ募集チラシ」作成支援、住道矢田地活協:「まちづくり研究会」開設、矢田中地活協「地活協広報紙」3500部発行、隣接する専門学校との連携推進などを支援した。 地域自らが地域の課題解決に向けて動いている。住道矢田地活協の「まちづくり研究会」も定期的に開催しており、また矢田中地活協の「地活協広報紙」も発行しており、今後も継続・活性化することを期待している。	今川、田辺、鷹合、住道矢田および矢田中の各地域活動協議会における取組を支援し、その経過や成果を区内14の地域活動協議会に伝達・情報共有を支援していくことが課題である。 今川・田辺・鷹合・住道矢田・矢田中地域の支援は有効であると評価できる。今後はその成果を他地域に伝達・情報共有を行い、派生することを期待している。
地域データの整理【再掲】	地域課題把握などの基礎資料として、地域データを整理する。大阪府安まちアーカイブ(大阪府警察本部)にもとづく防犯関係情報を14地域について整理する。【再掲】	大阪府安まちアーカイブ(大阪府警察本部)にもとづく防犯関係情報を14地域について整理した。【再掲】 防犯情報は地域の人にとって日々の生活に大きな影響を与えることから、整理した内容の共有を行い地域課題の解決に向かうことを期待する。【再掲】	14地域の防犯関係状況について基礎資料を作成することができた。【再掲】 防犯情報は地域の人にとって日々の生活に大きな影響を与えることから、整理した内容の共有を行い地域課題の解決に向かうことを期待する。【再掲】	各地域活動協議会に防犯関係状況にかかる基礎資料を提供していく。【再掲】 防犯情報は地域の人にとって日々の生活に大きな影響を与えることから、整理した内容の共有を行い地域課題の解決に向かうことを期待する。【再掲】